

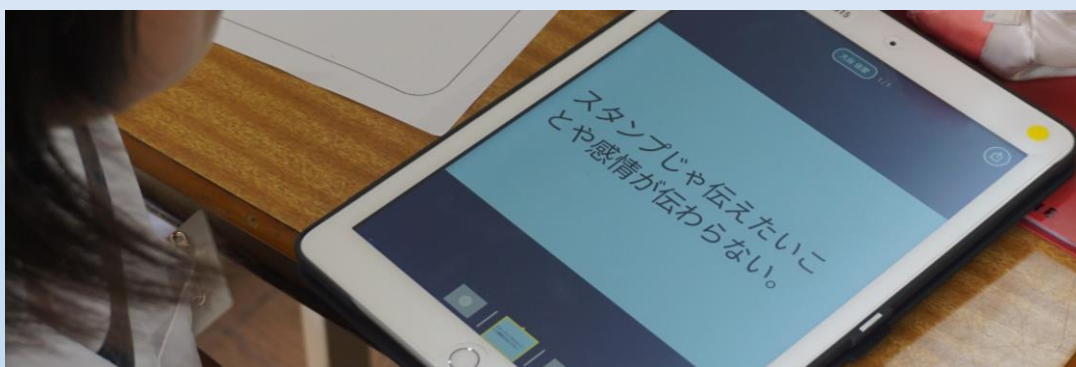
対馬市立厳原中学校・県立対馬高等学校を訪問しました

「長崎っ子の心を見つめる教育週間」は、心豊かな長崎っ子の育成を目指して、県民を挙げて「地域の子どもを地域で育てる」取組です。県内全ての公立学校では、5月から7月までの間の1週間を本教育週間と設定し、教育活動公開を通して教職員、保護者、地域の方々が、ともに子どもの心を見つめる場としています。

7月5日（金）には県教育委員及び関係者が対馬市立厳原中学校を訪問しました。また、今年度から「国際文化交流科」を設置した対馬高等学校を訪問し、生徒たちと意見交換を行いました。

対馬市立厳原中学校（第2学年 情報モラル教育

「自分と相手との違い」SNSノート・ながさき）

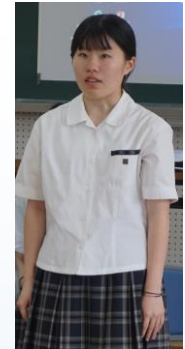


厳原中学校では、道徳の学習の一環として、SNSノート・ながさきを使い、個人の感じ方や考え方は一人一人違うことに気付き、それぞれの個性や立場を尊重しようとする学習に取り組みました。対馬市で導入されているタブレットも活用し、自分の考えを入力したり、電子黒板で友達の意見や考えを共有したりするなど、テンポのよい授業が展開されていました。生徒は自分の考えを相手に伝えるときの大切なポイントについて、学ぶことができました。

視察後の教育委員の所感（一部）

- ◇教師が生徒の聞く態度を繰り返し指導していた。生徒の状況をきちんと把握していて良かった。
- ◇情報モラルの教育は、保護者を対象に実施してみても良いと思う。スマートフォンやインターネットの扱いについて、「ダメなものは、ダメ」と保護者にも理解してもらって授業展開も望まれる。
- ◇もう少し授業の内容について、生徒同士が深くディスカッションする時間が欲しかった。
- ◇社会に出ると、考えが異なる人ともチームを組んで、共に働く状況もある。このような情報教育を通して、社会へ出たときにも生かせる教育を根付かせてほしい。

県立対馬高等学校（生徒と教育長・教育委員との意見交流会）



県立対馬高等学校では、離島留学生を含む16名の生徒との意見交流会を開きました。生徒たちは対馬高校の志望動機や故郷・対馬への思い、将来の夢や目標を堂々と話しました。韓国語能力試験（TOPIK）6級に見事に合格した国際文化交流コースの3年生生徒が話す韓国語の素晴らしさには、教育長、教育委員からも感嘆の声が上がりました。

古くより対馬と韓国は交流が続いており、現在も多くの韓国人観光客にお越しいただいています。朝鮮通信使に代表される伝統文化に裏付けされた交流でもありますが、そのような背景があり、対馬高校に韓国語を中心とした「国際文化交流科」を設置し、離島留学制度として全国の各地域から対馬に来てもらっています。このことは、地元の生徒にとっても大きな刺激となります。違う考えをもつ仲間が、同じ高校、同じ寮で、同じ目的に向かって学びを進めていく。3年間しっかりと学習し、それぞれの目標を達成してほしいと願っています。皆さんのこれからの頑張りに期待しています。

令和元年7月5日

長崎県教育委員会教育長 池松 誠二